



月刊バイブル（世界のベストセラー、聖書のトリビア）

第34号

発行：レムナントキリスト教会

価格：100円（送料込みで200円）

〔目次〕

- ◎ 聖書からのメッセージ：「もう一人の助け主」エレミヤ
- ◎ 聖書と日本「ソロモン王と大岡政談(子争い)」
- ◎ イエス・キリストに出会う「2人の姉妹とイエス」
- ◎ キリストを信じた体験談「バザー」by S
- ◎ 聖書に関する有名人のことば：アイザック・ニュートン
- ◎ 聖書贈呈

<聖書からのメッセージ >

「もう一人の助け主」by エレミヤ

本日は「もう一人の助け主」という題でメッセージしたいと思います。ヨハネ14：16～27のテキストに沿ってみたいと思います。順に見ます。

ヨハネ14:16 わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためです。

これはどういう場面かという、いわゆる「最後の晩餐」の場面です。何故最後なのか、というところを境にキリストは弟子たちと離され、逮捕され、十字架につけられてしまうから、なのです。

そういう意味では、この日、場面はある意味、キリストと弟子たちとの別れの場面、ともいえなくもないのです。ここでは、助け主とい

うことばが使われています。助け主とは第一義的にはキリストを指します。私たちが福音書の記述を見るとき、私たちはキリストはまさに私たちの「助け主」であることを知ります。

キリストは生まれつきの盲人の目を開け、見えるようにしました。また、耳の聞こえない人を癒し、聞こえるようにしたのです。また、足が弱り、歩けない人を癒してまっすぐ歩けるようにしました。また、食物に飢えた4000人、5000人の群集を前にして、パンを増やし、パンを与え、彼らの飢えを満たしました。まさにキリストこそ、私たちの助け主であることを知るのです。こんな人が私たちの身近にいて助けてくれるなら、私たちもどんなに助かることでしょうか。

しかし、悲しいかなこの場面を最後にキリストは弟子たちから去っていき、私たちからも去っていくように見えます。しかし、悲しむ弟子たちを前にキリストは、父なる神がもう一人の助け主をお与えになる、という約束

「もう一人の助け主」 by エレミヤ

について語ります。もう一人の助け主？その意味合いは、キリストが人々を助けた多くの行い、それと同じように私たちを助ける助け主が与えられる、という意味合いなのです。

14:17 その方は、真理の御霊です。世はその方を受け入れることができません。世はその方を見もせず、知りもしないからです。しかし、あなたがたはその方を知っています。その方はあなたがたとともに住み、あなたがたのうちに住まれるからです。

そのもう一人の助け主とは誰か、というところで、「真理の御霊」のことであることが語られています。御霊ということばには、なじみがないかもしれませんが、要するに神の霊のことです。ここで語られていることはすなわち、こういうことです。肉体を持つキリストは去っていくが、しかし、そのキリストと同じように私たちを助けて下さる聖霊（御霊）が、信じる人々に与えられる、そのことが書かれているのです。

「世はその方を受け入れることができません。世はその方を見もせず、知りもしないからです。」

しかしその神の霊である聖霊とは、この世においては全く知られない存在、あたかも存在していないかのように、この世では認知されない存在であることがここでは書かれています。このことは全くその通りです。この世は肉体を持たれたキリストは知っています。キリストについては、本にも書かれ、テレビにも取り上げられます。

しかし、神の霊である聖霊に関しては、この世の本にもテレビにも全く登場もしませんし、この世の人々は全く知らないのです。しかし、だからといって存在しない、というわけではないのです。いえ、存在するどころか、聖霊を抜きにしてはクリスチャン生活は成り立たないのです。

「しかし、あなたがたはその方を知っています。」

クリスチャン生活を考え、行う上でもう一人の助け主である神の霊である聖霊を抜きにして考えられません。この世の人々にとって、聖霊は、その存在さえ聴いたことがないでしょうが、しかし、信じてクリスチャンになった人々は誰でも、この聖霊の存在を感じ、知るようになります。「しかし、あなたがたはその方を知っています。」と書かれている通りなのです。

「その方はあなたがたとともに住み、あなたがたのうちに住まれるからです」

誰でもキリストを信じるようになるとこの聖霊がうちに住まれ、聖霊が住まわれるようになります。そして、このもう一人の助け主が私たちの歩みを助けてくれるようになります。これがクリスチャン生活なのです。神の霊が人とともに住む？このようなことばは今まで聞いたことがないかもしれませんが、しかしクリスチャンの間では常識です。

14:18 わたしは、あなたがたを捨てて孤児にはしません。わたしは、あなたがたのところに戻って来るのです。

キリストは明日には十字架につけられ、弟子たちとはお別れになるはずなのに、ここでは、ご自分が弟子たちを捨てて孤児にはしない、戻ってくることを語ります。何をいっているのでしょうか？

ここで語られているのはこの神の霊である聖霊の意味合いです。それは、すなわち、キリストの霊であることがここでは語られているのです。すなわち、神から下される聖霊とは、実は他でもないキリストの霊なのです。だからこそ、キリストは弟子たちを孤児にしない、戻ってくる、といえるのです。

「もう一人の助け主」 by エレミヤ

確かに肉体を持った目に見えるキリストは弟子たちを去ります。しかし、目に見えない霊、キリストの霊である聖霊は、以前と同じように弟子たちのところに戻り、助ける、そのことが語られているのです。

14:19 いましばらくで世はもうわたしを見なくなります。しかし、あなたがたはわたしを見ます。わたしが生きるの、あなたがたも生きるからです。

この世の人にとり、目に見える肉体を持つキリストだけが全てです。だから、キリストが見えなくなれば、もうそれは存在しないものなのです。しかし、キリストを信じる弟子やクリスチャンにとってはそうではありません。たとえ、目に見える肉体を持ったキリストは存在しなくなったとしても、その霊である聖霊は我々とともに生き、私たちはその方を見える存在のように知ります。そして、その聖霊によって我々は生きるのです。それが、「わたしが生きるの、あなたがたも生きるからです。」ということばの意味合いです。

14:26 しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。

聖霊の一つの働きはここに書かれているように、私たちに「すべてのことを教え」て下さることです。

ですので、私たちが人間的に知恵がなくても、また思慮や、失敗があるとしても大丈夫です。たとえ、私たち自身が、人間的に配慮や知恵、思慮がない者であったとしても、しかし、それで落胆する必要はありません。

ここに書かれているように、私たちの上に与えられた聖霊は、すべてのことを教えられます。もちろん、私たちが祈りのなかで、キリストの霊である聖霊の助けを求めれば、です。

仕事の上のことでも、人間関係のことでも、自分の進路のことでも、どのような難問があっても、私たちがこの方に祈りのなかで、求めるなら、必要な助け、答え、知恵をこの方は与えてくださいます。

以前の教会で神学生として奉仕していた時、こんなことがありました。ある時、私は教会と一緒に奉仕活動を行っている人から、突然の様に非難されたことがありました。その非難は正直いいがかりのような内容でした。私は少しびっくりしましたがその場では、特に反論も言い返しもしませんでした。しかし、家に帰ってこのことは心のしこりとして私の心に残りました。明日にでも教会に行けばまたこの相手に会うのでしょうか、その時、この非難する人にどう対応すべきかわからなかったのです。言い返すべきなのか、それとも…。それで、私は祈りました。「神様、どう考えても相手が悪いと私には思えます。また明日あの人に会ったら私がどう対応すべきか教えてください。」

そう祈った後、私は何気なく部屋の本棚に手を伸ばしました。そして、ある外国のクリスチャンの書いた本を見たのです。偶然にも開いたページにこう書いてありました。「あなたには何の落ち度がないとしても貴方からまず和解しなさい」これを読んで私はびっくりしました。そして、確信しました。これが神からの答えであることを。そして、私は次の日、私の方からその非難した知人に話しかけ、和解したのです。このように聖霊はたしかに私たちにすべてのことを教えてくださる、このことを知ってください。—以上—



助け主キリスト

聖書と日本「ソロモン王と大岡政談(子争い)」

大岡越前は江戸時代中期の江戸奉行であり、現在でも「名奉行・大岡裁き」として時代劇に登場する有名な人物です。大岡越前は庶民に絶大な人気があり、色々と創作されたものが「大岡政談」です。その中の「子争い」というものは、実の子供だと主張する2人の母親が1人の子供を取り合う話です。越前は、2人で子どもを引っ張りあい勝った方が母親であるとします。1人の女は痛がる子供を哀れに思い手を放します。勝って子供を連れて行こうとした女に対して、越前は手を放した方の女が実の母親であると宣言するという話です。

この「子争い」という話の元は旧約聖書の「第一列王記」です。今から3000年以上も前のイスラエルの王ソロモンの裁判が、日本の江戸時代の江戸奉行の裁判の話とつながっているのです。

「第一列王記」3章では、同じ家に住む2人の遊女が同時に子供を産み、一方の女の子供が死んだので、その女は子どもをすり替えてしまいます。2人は1人の子供を取り合うことになりソロモン王に訴えます。

第一列王3；23～28

そこで王は言った。「ひとりは『生きているのが私の子で、死んでいるのはあなたの子だ』と言い、また、もうひとりは、『いや、死んだのがあなたの子で、生きているのが私の子だ』という。」

そして、王は「剣をここに持ってきなさい」と命じた。剣が王の前に持って来られると、王は言った。「生きている子どもを二つに断ち切り、半分をこちらに、半分をそちらに与えなさい。」

すると、生きている子の母親は、自分の子を哀れに思って胸が熱くなり、王に申し立てて行った、「わが君。どうか、その生きている子をあの女にあげてください。決してその子を殺さないでください。」しかし、もうひとりの女は、「それを私のものにも、あなたのものにもしないで、断ち切ってください」と言った。

そこで王は宣告を下して言った。「生きている子どもを初めの女に与えなさい。決して

その子を殺してはならない。彼女がその子の母親なのだ。」

イスラエル人はみな、王が下したさばきを聞いて、王を恐れた。神の知恵が彼のうちにあつて、さばきをするのを見たからである。

ソロモン王(B.C 1011~931)は父ダビデの跡を継ぎ古代イスラエル王国の王となりました。旧約聖書の「第一列王記」と「第二歴代誌」にはソロモン王が、神の知恵に満たされ、素晴らしい繁栄が与えられたことが記されています。

ソロモン王は、人間的なものに頼らず、唯一の神に信頼したので人間の限定的な知恵ではなく、神からの知恵をあたえられました。そしてここでは本当の母親が誰であるのかという難問を神の知恵により解決しました。

第二歴代誌9章では、南の国のシェバの女王がソロモン王の名声を聞き難問で試そうと王国を訪れたことが記録されています。そして彼女がソロモンの神からの知恵と繁栄を見て驚愕したことも記されています。

聖書は決して絵空事の空想話や神話ではありません。歴史的事実が正確に記されています。聖書は神の言葉に従う人々が、どのように神によって守られ歩んだのかを記したものでもあります。また、聖書は人間的方法ではなく、唯一の神ご自身の力によって記された特別なものです。そして今の時代に生きる私たちにも、聖書の言葉は働きます。唯一の神を信じる者には、ソロモン王と同じように神の知恵が与えられるのです。



子争い

イエス・キリストに出会う「2人の姉妹とイエス」

イエス・キリストは2000年ほど前、イスラエルに救い主として来られました。その当時の人々はイエスと会い、自分の目で確かめることができました。そして今は聖書を通してイエス・キリストに出会うことができます。

ルカ10：38～42

さて、彼らが旅を続けているうち、イエスがある村に入られると、マルタという女が喜んで家にお迎えした。

彼女にマリヤという妹がいたが、主の足もとにすわって、みことばに聞き入っていた。

ところが、マルタは、いろいろもてなしのために気が落ち着かず、みもとに来て言った。「主よ。妹がわたしだけにおもてなしをさせているのを、何ともお思いにならないのでしょうか。私の手伝いをするように、妹におっしゃってください。」

主は答えて言われた。「マルタ、マルタ。あなたは、いろいろなことを心配して、気を使っています。しかし、どうしても必要なことはわずかです。いや、一つだけです。マリヤはその良いほうを選んだのです。彼女からそれを取り上げてはいけません。」

ここでは、イエスとマルタとマリヤという姉妹の出会いが記されています。イエスが村に来られたので、マルタは喜び家に迎えます。彼女は、イエスをもてなすために、忙しく立ち働きますが、妹のマリヤは手伝いをするどころか、イエスの近くに座り、話を懸命に聞いています。マルタは、自分だけ忙しく、マリヤが全く働こうとしないのを見て怒りを覚え、喜んでお迎えしたはずのイエスに文句を言ってしまいます。

イエスはそのようなマルタの心の状態を御存知でした。イエスは、マルタの無礼な行為に対して怒らずに「マルタ、マルタ」と優しく呼び掛けられます。そして、必要なことは一つだけです。と彼女を諭されました。では必要なこととはなんでしょうか？

最も大切なことはマリヤのようにイエスの

傍にいてイエスの言葉を聞くことでした。マルタは、イエスの話を聞くことなく、自分の考えで行動しました。最も大事なことは、自分の考えや力であれこれと働くことではないのです。自分の考えや能力だけで何事もしようとするなら、心配事や焦りで疲れ果ててしまいます。必要なことは1つだけだとイエスは言われます。イエスの言葉を真剣に聞くことが大事です。そうすれば、安心感の中で毎日を過ごすことができるのです。

この出会い以降、マルタ、マリヤ姉妹と彼女たちの兄弟ラザロの3人とイエスは非常に親しくされるようになります。彼らのことは、ヨハネの福音書に幾度も記されています。ラザロは病で亡くなった4日後にイエスによって蘇り、マリヤは十字架にかかれる前のイエスに非常に高価な香油を注いだことが記されています。イエスはこの3人をとても愛されました。

彼らのようにイエスを真剣に求めるなら、私たちも、聖霊によってイエスと個人的に親しくなることができます。イエスは私たち一人一人を深く知っておられ、愛しておられます。



マルタとマリヤ

キリストを信じた体験談「バザー」 by S

私が以前通っていた教会では年に二回、バザーを開催していました。そしてバザーの直前には、何日かにわたって牧師さんをはじめ、有志の人たちが集まってお祈りをしていました。そのお祈りの課題のひとつに、「天候が守られますように」ということが挙げられていました。そしてバザーの開催日は、いつも大体晴れていました。ところが、ある時のバザーの日、その日は朝から雨が降っていて、バザーの時間帯にも雨は止むことはありませんでした。後になって、その日のことについて、証をした方がおられますので、以下紹介させていただきます。

この間、恒例のバザーが行われましたよね。それで私は開催前にいつものように皆さんと一緒にバザーが無事に行われるように、また、天候にも恵まれるようにお祈りをしました。けれども先日のバザーの当日は雨が降りましたよね？一瞬、「せっかくのバザーなのに・・・」と思ったのですが、そこで気持ちを切り替えて、周囲の人たちと一緒に「感謝」を捧げることにしました。そうしたら、晴れの日の時と変わらず楽しいバザーとなりました。しかも、普段のバ

ザーよりも売り上げも多かったということをお会計担当の方からお聞きしてびっくりしました。その時、私はこんな風に思いました。神様は全てのことをご存知で、たとえ雨であっても、晴れの日と同じように私たちが神様に感謝を捧げるかどうかをご覧になっていて、そして私たちの思いに応えてくださったのではないかと思います。もし、あの時、不平とか不満とかつぶやきで終わらせていたら、結果は変わっていたのではないかと思います。収益もあまり得られず、しかも喜びも無かったのではないかなあと思いました。なので、どんな時であっても、神様に感謝を捧げることは大事ななあと思いました。

この証を聞いて、私もこの方がおっしゃることに同感しました。その日、たしかに雨は降っていたのですが、多くの人に来ていただいて、いつもと変わらない楽しいバザーでした。バザーで得た収益は、一人でも多くの方が救われるよう、伝道のために用いられるのですが、いつもよりも多かったということを知って、びっくりしました。人間的には雨が降るよりも、晴れのほうが

キリストを信じた体験談「バザー」 by S

良いのではありますが、でも、どんなことでも感謝していくことは大事なのでは？と思いました。最後に御言葉を読んで、終わりにしたいと思います。

詩篇 92:1 主に感謝するのは、良いことです。いと高き方よ。あなたの御名にほめ歌を歌うことは。

92:2 朝に、あなたの恵みを、夜ごとに、あなたの真実を言い表わすことは。

92:3 十弦の琴や六弦の琴、それに立琴によるたえなる調べに合わせて。

92:4 主よ。あなたは、あなたのなさったことで、私を喜ばせてくださいましたから、私は、あなたの御手のわざを、喜び歌います。

92:5 主よ。あなたのみわざはなんと大きいことでしょう。あなたの御計らいは、いとも深いのです。

92:6 まぬけ者は知らず、愚か者にはこれがわかりません。

92:7 悪者どもが青草のようにもえいでようと、不法を行なう者どもがみな栄えようと、それは彼らが永遠に滅ぼされるためです。

92:8 しかし主よ。あなたはとこしえに、いと高き所におられます。

92:9 おお、主よ。今、あなたの敵が、今、あなたの敵が滅びます。不法を行なう者どもがみな、散らされるのです。

92:10 しかし、あなたは私の角を野牛の角のように高く上げ、私に新しい油をそそがれました。

92:11 私の目は私を待ち伏せている者どもを見下し、私の耳は私に立ち向かう悪人どもの悲鳴を聞きます。

92:12 正しい者は、なつめやしの木のように栄え、レバノンの杉のように育ちます。

92:13 彼らは、主の家に植えられ、私たちの神の大庭で栄えます。

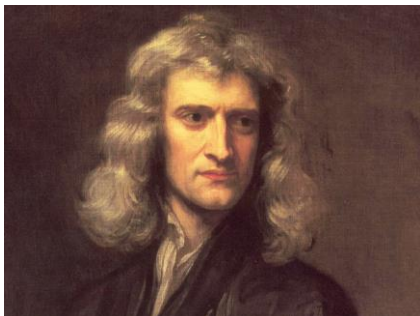
92:14 彼らは年老いてもなお、実を实らせ、みずみずしく、おい茂っていきましょう。

92:15 こうして彼らは、主の正しいことを告げましょう。主は、わが岩。主には不正がありません。



バザー

聖書に関する有名人のことば：
アイザック・ニュートン(イギリスの数学者、科学者)



私は神のことばこそ、もっとも高遠な哲学であると認める。私は聖書にこそ、どのような深い歴史にもまさるさらにはっきりした信頼性のしるしを見つける。

<お知らせコーナー>

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日/午前 10:30-12:30,午後 14:00-16:00

場所:東京都、京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館

1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、「レムナントキリスト教会」の部屋を確認ください。

どなたでも来会歓迎、入場無料です。tel:042-364-2327, mail:truth216@nifty.com

★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。

尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家

<http://87494333.at.webry.info/>

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風

<http://whattopics.at.webry.info/>